



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

# 病院だより

2020年9・10月  
第336号

病院だより第336号 (2020年9・10月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者

広報・公開講座委員長 今井 敦

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

Tel

045-971-1151

## 日本一のリハビリテーション診療をめざして

藤が丘リハビリテーション病院

リハビリテーション科 診療科長

医学部リハビリテーション医学講座 教授

川手 信行

私たちリハビリテーション(以下、リハと略す。)医学講座は、藤が丘リハ病院を本拠地として、藤が丘病院、昭和大学病院、附属東病院、江東豊洲病院、横浜市北部病院の急性期5病院にリハ科専門医が常勤し、リハ診療を展開しております。急性期から始まり、回復期、生活期へと円滑にリハ医療がバトタッチできるよう、各病院で連携を取り合っています。

昭和大学は、医学部を有する82大学の中で、唯一、リハ専門病院を有する大学です。藤が丘リハ病院が、平成2年に開院した当初は、日本初の都市型リハ病院として注目されました。また、現在は、理学療法士・作業療法士・看護師の教育機関である保健医療学部とも連携し、次世代を担うリハ専門職を養成する病院として重要な役割を果たしています。

藤が丘リハ病院は回復期リハ病棟を2病棟96床を有しており、大学附属の急性期病院や周囲の急性期病院から回復期リハ適応患者(脳血管疾患、整形外科疾患など)が毎日のように転入院しており、発症前の生活に戻ることを目標に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はもちろん、看護師、介護士、薬剤師、管理栄養士、義肢装具士などリハ関連職が連携し、同じ

目標に向  
かってリハ  
医療を展開  
しております。  
リハ科  
医師は、入  
院患者の



リハビリテーション合同カンファレンス風景

主治医となり、疾患管理・全身管理とともに、各療法士とのカンファレンスを通じてリハプログラムを立てながら患者それぞれの目標達成(主に自宅復帰)に向けてアプローチをしています。

リハ科の診療内容は多岐にわたっていますが、その中でも摂食・嚥下機能を評価・診断するために、VF(嚥

下造影検査)、VE(嚥下内視鏡検査)は入院・外来患者に行っております。特にVFは実際の食事に近い状態のため、管理栄養士の協力のもと、模擬食(ゼリー、おかゆ、クッキーなど)を作って検査に使用しています。また、装具療法は、脳卒中片麻痺患者に対する長・短下肢装具、切断患者の義肢、小児疾患の外反扁平足に対する足底装具や脊椎側弯に対する体幹装具など



リハ診察風景

患者の障  
害特性に  
合わせて  
医師と療  
法士、義  
肢装具士  
が協力して  
作製してお

り、メンテナンスも行っております。

また、脳卒中など中枢神経疾患に見られる筋痙縮に対する治療として、ボツリヌス療法も外来患者を中心に行ってい

ます。痙縮は、関節拘縮や手指の握りこぶし変形、足関節の内反尖足、



ボツリヌス療法

足趾屈曲(crow toe)の原因となり、歩行や日常生活活動に支障をきたします。A型ボツリヌス毒素製剤を痙縮筋に施注し、痙縮を軽減させる治療法で、電気刺激装置や筋電図、超音波などを利用して施行しています。

最近のリハ科診療は、ロボティクスや経皮的磁気刺激など様々な先端治療法が活用されてきております。私たちもこれに乗り遅れることなく、新しい最先端の治療法を取り入れ、あるいは開発していきたいと思っております。また、リハ医療は急性期、回復期で完結ではなく、退院後、患者さんがいきいきとした、より良い生活ができる事が最大の目標であり、これが達成できるように地域リハ関連施設やケアマネジャーなどの関連職と連携していきたいと思っております。そして、医局員とともに名実ともに日本一のリハ診療を目指して邁進したいと思っております。



## 入職から半年を経て

藤が丘病院 1年次臨床研修医 前田 和郁

短い夏が過ぎ、ひんやりした空気を避けようと日向を歩きたくなるような季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。私、昭和大学藤が丘病院1年次臨床研修医代表 前田和郁と申します。入職から早や半年が過ぎ、今回はそのご報告をさせていただきます。

この半年間は、学生時代からの環境の変化についていくことに必死だったように思います。少し前までは国家試験を目指してただただ勉強をしていた自分が、今では患者さん一人ひとりに向き合いながら、微力ながらもチーム医療の一端として働いているのです。正直、時々不思議な感覚になることがあります。その変化に驚きを隠せない傍ら、自分の未熟さを痛感することもありました。医療の一端にいるとはいえ、まだまだ周りの方々に支えてもらってようやく立っているという感覚がぬぐえず、なんとももどかしく感じます。少しずつ、そして着実に成長し、いつか誰かを支えることができるよう日々精進する所存でございます。これまでの半年間にお世話になりました多くの方々へ感謝を申し上げるとともに、残り半年間も引き続きご指導、ご鞭撻賜りたく、何卒よろしくお願い致します。



## 励ましをパワーに

藤が丘病院 集中治療センター  
看護師 古谷 夏菜

入職直後、集中治療センターに配属が決まった時は不安ばかりの日々でした。大学で学んだはずなのに知識が足りないことも多く、大きな壁にぶつかった気持ちでした。失敗することも多く、患者さんへの影響を考えると落ち込むことがありました。今の自分が頑張れているのは、プリセプターや先輩方が優しく、時には厳しい指導と励ましがあったからです。今では少しずつですが自分から動けるようになりました。

また、患者さんを受け持つということは、看護の視点を持って観察、ケアしていくことが大切なのだ学びました。これからも、まだまだ困難はたくさんあると思いますが、成長できる職場環境で働けていることに感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきます。



## 実医療の経験を積みながら目指す 薬剤師像

藤が丘病院 薬剤部  
臨床研修薬剤師 安藤 睦実

臨床研修薬剤師として入職し、早いもので半年が経ちました。7月に始まった病棟研修では、先輩方のご指導の下、チーム医療の一員として何ができるかを考え、学ばせていただいております。

入職時に執筆させていただいた病院だよりでは、「理想の薬剤師像」という言葉を用いました。半年が経過し、実医療は頭で考えるよりも広く、深いことを経験しました。自分の「理想の薬剤師像」に到達するためには、何が必要かを日々考え行動に繋げられるように研修に取り組んでいます。今後も自分の目指す薬剤師像に向かって、これまで研修させていただいたことを生かし、成長してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 臨床研究の重要性を感じて

昭和大学 保健医療学部 理学療法学科 講師  
藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション  
理学療法士 本島 直之

実習地であった藤が丘リハビリテーション病院に配属されて半年が過ぎました。入職当初は慣れない環境での臨床業務に戸惑いもありましたが、リハビリテーションセンターのスタッフをはじめとする周囲の方々の支えによって少しずつ順応し、昭和大学の職員として、患者さんや学生さんに貢献できつつあると感じています。

この半年間は後輩指導や学生指導に積極的に携わらせていただきました。それらを通して臨床研究の実施および発信の重要性を再認識する半年間でもありました。よって、今後は自分が行っている動作分析関連の研究にもより力を注ぎ、リハビリテーションを通して患者さんや社会に還元できるよう日々の業務に取り組んでいく所存です。





## はい、診療放射線技師 櫻井と申します。

藤が丘病院 放射線技術部  
診療放射線技師 櫻井 華

半年前、電話を取るときに無意識に言っていた決まり文句です。今も半年前と変わらず、この決まり文句から始まります。しかし、半年前と違う点があります。それは、以前より「自覚」と「責任」を持った行動を心掛けていることです。特に病棟撮影では、1人で全ての撮影依頼に対応し各病棟を回ります。撮影予定の管理、ポジショニング、撮影条件や画像の確認なども1人で全て行います。病棟撮影を任されてからは、診療放射線技師として「自覚」と「責任」の重要性を再確認し、業務経験から学びプロ意識を持ち続けることの意義を理解するようになりました。

これからも、患者さんの撮影時の苦痛をできるだけ軽減できるようやさしく丁寧に、そして素早い安全な業務を目指し、信頼される診療放射線技師になれるよう業務に励みたいと思います。



## 入職後半年の振り返りと今後への抱負

藤が丘病院 臨床病理検査室  
臨床検査技師 石川 樹

入職して半年間、月日の経過があっという間で驚いています。4月から臨床検査技師として藤が丘病院の臨床病理検査室で働き始め、先輩方の指導の元で学ぶことが多く、充実した日々を送っています。

入職時は、業務に携われる喜びと同じくらい不安な気持ちもありましたが、知識と技術を身につけていくにつれ、やりがいやふくらむを感じます。その反面、自分の手技や行動に伴う責任の重さも感じるようになり、一人前になるということの難しさを感じています。

現在は輸血関連業務が中心のため、実際に患者さんと関わる機会は少ないですが、今後、採血業務にも従事します。患者さん一人一人と向き合い、寄り添う気持ちを忘れずに日々経験を積んでいきたいと考えています。



## 配属から半年が経って

藤が丘病院 管理課管財・営繕係  
柴田 実咲

今年から管財・営繕係に配属された柴田実咲と申します。配属された直後は、業務内容や新しい環境に不安も感じましたが、先輩方が丁寧に指導して下さったので、日々学んで業務に励むことができました。配属から半年が経ち、当初に比べると業務内容や環境にも慣れてきました。主な業務内容は物品の購入、機器の保守契約、修理依頼などです。医療が円滑に行えるよう、医療現場の方々やメーカーさんとのコミュニケーションを大切に、慎重にかつ迅速に対応することを日々心掛けて行っております。

まだまだ未熟ではありますが、事務職員として精一杯努めてまいりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

## 急性期に特化したリハビリテーションを目指して

藤が丘病院 リハビリテーション室  
技師長 小笹 佳史

スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋と、普段であれば人々が交流する季節となる筈ですが、今年は、人々の生活や活動の変化を余儀なくされています。リハビリテーションは、まさに運動(理学療法)、活動(作業療法)、摂食(言語聴覚療法)と、「生きる」を再び取り戻していく部署であります。

平成29年4月より昭和大学附属8施設を統合して、昭和大学統括リハビリテーション部会が開設され、平成30年4月より名称が統括リハビリテーション室になりました。その中で、藤が丘病院リハビリテーション室(理学療法士14名、作業療法士6名、言語聴覚士1名の計21名)は、急性期に特化したリハビリテーションを目指し、日頃より各診療科、各病棟、各部署のご支援を賜りな



リハビリテーション室1・2(9階)



から、チーム医療の一員として業務に勤んでいます。  
この場をお借りして感謝申し上げます。

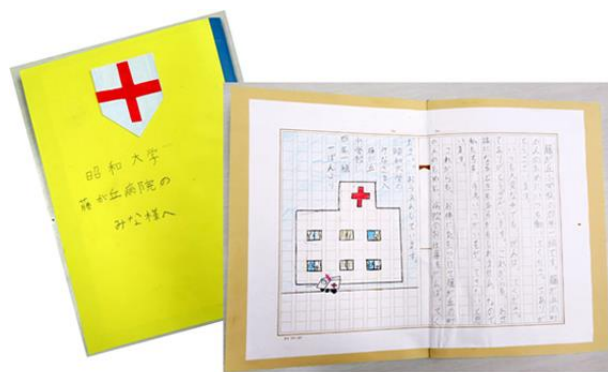
「急性期に特化した」とは、救命病棟や集中治療室の患者さんや、手術直後の患者さんをはじめ、疾病治療のために入院された患者さんの急性期治療と同時に介入し、リスク管理をしつつ、効果的なリハビリテーションをすることで、要介護にならないよう予防し、再び「生きる」を取り戻していくことです。

「早期離床」、「認知低下の予防」はもとより、今後は「早期摂食」、「早期排泄」など、急性期治療の中でも、生活に密着したリハビリテーションが求められる時代になってきます。リハビリスタッフ一同は、高度なリスク管理の知識を持ち、医師や看護師、臨床工学技士、薬剤師など他の職種の方々とそれぞれの専門分野の中で協働できる能力保持のため日々研鑽しております。当リハビリ室では「呼吸・循環」、「運動器」、「脳血管疾患」、「がんリハ」とそれぞれ専門資格を持った療法士を配置しております。また、臨床教員が3名在籍し、未来の療法士の育成にも携わっています。今後ともリハビリテーション室をよろしくお願い申し上げます。

今回、近隣の小学校及び幼稚園より当院へ激励のメッセージをいただきましたので紹介させていただきます。皆様からの温かいご声援は、現場で働く医療従事者にとって大きな励みとなっています。



あざみ野白ゆり幼稚園より



藤が丘小学校より

## 昭和大学藤が丘病院・昭和大学藤が丘リハビリテーション病院へのご支援の御礼

現在に至るまで新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しております。前々月号に引き続きこの場をお借り、皆様からのお気遣いに心より御礼申し上げます。

今後も皆様からのご支援を力に変え、一丸となって引き続き院内感染防止に取り組み、かつ安全・安心な医療の提供に努めてまいります。皆様からのご支援に対し、重ねて御礼申し上げます。

### 診療統計

2020年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2020年8月	2020年9月	2020年8月	2020年9月
外来患者数	21,469人 (858.8人)	22,014人 (917.3人)	4,162人 (166.5人)	4,127人 (172.0人)
入院患者数	14,419人 (465.1人)	14,627人 (487.6人)	4,778人 (154.1人)	5,168人 (172.3人)
紹介率	70.9%	76.8%	72.8%	77.6%
逆紹介率	75.6%	73.6%	106.6%	82.5%

#### 《広報・公開講座委員会委員》

今井 敦	原田 浩史	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	中田 土起文	黒木 優一郎
川手 信行	西村 栄一	泉 紀子	高木 睦子	佐藤 郁子	山寺 志保	東 哲士人
岡部 圭吾	齊藤 あずさ	和田 洋一	小泉 春樹	山田 大暉	高橋 良治	(順不同)